

令和3年度 学校評価【計画書・報告書】

加賀市立三木小学校 校長 青木 康人 印

学校教育ビジョン	確かな学力を身につけ、心豊かでたくましく、郷土を愛する三木の子の育成	～一人一人の存在が大切にされ、あたたかい人間関係が築かれる学校～
○ 学校教育目標	確かな学力を身につけ、心豊かでたくましく、郷土を愛する三木の子の育成	～一人一人の存在が大切にされ、あたたかい人間関係が築かれる学校～
○ めざす児童像	進んで学ぶ子 心豊かな子 たくましい子	
○ めざす教師像	児童や保護者に信頼される教師 危機管理意識の高い教師 お互いを認め、高め合う教師	
○ 基本方針	(1) 自分のめあてを明確にし、進んで学ぶ子を育てる (2) 感謝や思いやりの心を持ち、心豊かな子を育てる (3) 健康や体力の向上に努め、たくましい子を育てる (4) 保護者、地域と連携し、信頼される学校づくりに努める (5) 使命感・責任感をもち、教育への情熱を絶やさない教師力の向上を図る (6) 教職員のメンタルヘルスの増進に努め、業務改善を推進する	

評価の項目	今年度の重点目標	具体的取組	主担当	現状及び取組状況	評価の観点	実現状況の達成度判断基準	備考	判定結果(中間)	判定結果(最終)	今後の改善策
①教育課程・学習指導	学力向上1校1プランに「書く力」の向上を位置づけ、共通実践し、条件を満たした文章を書く力を高める。	条件を満たした文章を書く力の向上のために、国語科を中心に推敲の習慣化、活用問題等に取り組む。	学力向上部 教務主任	主語・述語がずれて相手に伝わりにくい文を書いたり、条件を満たした文章を書くことができなかったりする。	【成果指標】 条件を満たした文章を書く力が向上したか。	条件を満たした文章を書くことができる児童が A: 8割以上 B: 7割以上 C: 6割以上 D: 6割未満	学期末テスト・活用問題テストにより、7月と12月に評価する。	B	B	問題文のキーワードや条件に線を引くことが定着し、推敲の習慣化が身につけてきた。計画的に条件を満たした記述をする活用問題に取り組み、書く力が向上してきた。今後はさらに分かりやすく簡潔な文章を書く力を伸ばす。
	授業の目標を達成させるための学習活動で、ICTの活用を努める。	日々の学習場面で一人一台のICT機器を活用し、学びの質を高める。	学力向上部 研究主任	ICT環境を整備し、どの教室でもICT活用ができるようにしている最中であるが、まだ積極的なICT活用に至っていない。	【成果指標】 児童が一人一台のICT機器を使って様々な活動を行い、学びを深めることができたか。	ICTを活用し、学びが深まったと感じる児童が A: 8割以上 B: 7割以上 C: 6割以上 D: 6割未満	児童アンケートにより、7月と12月に評価する。	A	A	様々な授業や学校生活の中で、ICTを活用することができた。今後も児童が意欲的に学習ができ、学びが深まるように活用場面を吟味しながらICTを使っていく。
②生徒指導 いじめの未然防止	様々な活動の中で、自分や友達のよさを認め合い、居心地のよい学級、学校を目指す。 いじめを見逃さない・風通しのよい学校づくりを推進する。	上級生は下級生へ配慮やお世話をし、下級生は上級生のお手本となる態度を見習うという、温かく思いやりのある心を育てるため、縦割り活動を計画し、実施する。 子どもの発する小さなサインを見逃さず、職員全体でみとる体制を充実させ、組織的に対応する。そのために、毎月の児童理解の会や年3回のいじめアンケート、問題行動等記録シート、いじめ未然チェックリストを活用する。	学習環境部 生徒指導主事	お互いにやさしく接する態度が見られるが、自分の思いを強く伝えたい時や些細なことで友達を注意する時に、自己中心的なことばで言ってしまっている児童がいる。 いじめ案件や友達同士の些細なトラブルについて、個別の指導や支援、児童理解の会での解決策の検討など、あらゆる方法で解決を図ってきた。今後も個に応じたきめ細かな指導・支援の継続が必要である。	【成果指標】 友達に思いやりのある態度を示すことができたか。 【成果指標】 個に応じたきめ細かな指導、いじめアンケートの活用、SCや保護者等と連携した迅速な対応により、成果が現れたか。	「目頃から友達から思いやりのある態度を受けた」と感じた児童が A: 9割以上 B: 8割以上 C: 7割以上 D: 7割未満 積極的にいじめを認知し、迅速で適切な対応によって成果が現れたと感じる教員が A: 全教職員 B: 8割以上 C: 7割以上 D: 7割未満	児童アンケートにより、7月と12月に評価する。 教職員アンケートにより、7月と12月に評価する。	A	A	全児童が「感じた」とする結果であった。「とても思う」は約7割、「思う」が約3割いた。今後は全員が「とても思う」に移行できるよう、内容をさらに工夫して縦割り活動に取り組む。 全教師が「成果が現れたと感じた」という結果であった。今後は、積極的認知と迅速・適切な対応を続けられるよう、声掛けや充実したいじめ対応研修を行う。
	③キャリア教育・進路指導	身近な人達と関わり、自分ができることを考え、目標達成に向けて取り組むことで、やり遂げた満足感を味わい、自己有用感を高める。	学校や学級のために考え、取り組む場面において、児童全員が活躍できる場を設ける。できるようになったことや努力したことを、キャリアパスポートを活用して価値づける。	学力向上部 教務主任	学校行事や学級づくりにおいて、自ら進んで考えて取り組んでいるが、昨年度はB評価であり、さらなる自己有用感の向上が望まれる。	【成果指標】 様々な役割の関係や価値を自ら判断し、やり遂げた満足感を児童は味わうことができたか。	自分の成長に対する気づきを深め、自己有用感が高まった児童が A: 9割以上 B: 8割以上 C: 7割以上 D: 7割未満	児童アンケートにより、7月と12月に評価する。	A	A
④保健管理	運動を推奨し、体力の向上に努める。	長休みのパワーアップタイム、体育の授業等で運動し、筋力の向上に努める。	学習環境部 体育担当	筋力アップに取り組んではいるが、県や全国平均と比較すると、依然として筋力が弱いという結果になっている。	【成果指標】 上体起こしの記録を5月と10月に測定し、10月の記録がプラス3回の児童の割合が70%に達したか。	上体起こしがプラス3回の児童の割合が A: 8割以上 B: 7割以上 C: 6割以上 D: 6割未満	5月と10月の体力テスト結果を比較し、10月に評価する。		D	結果は35%であった。行事日程の変更で取組期間が短くなり、児童への啓発や運動量の十分な確保ができなかった。また、成果指標の回数は負担が大きかった。全ての学年とも、平均値は県や全国を上回った。継続して取組を続ける。
	基本的な生活習慣づくりを通して、健康な心身の保持・増進に努める。	メディアコントロールと睡眠(早寝)の関係を中心とした生活リズムの向上に努める。長期休業中も家庭と連携し基本的な生活習慣の定着を図る。	学習環境部 養護教諭	メディアの視聴時間が長いと就寝時刻が遅く、生活リズムの乱れにつながっている児童がいる。	【成果指標】 各自で設定する早寝・メディアコントロールの目標を達成できたか。	自分の目標を達成できた児童が A: 8割以上 B: 7割以上 C: 6割以上 D: 6割未満	夏休み・冬休みぐんぐんカードより評価する。	B	A	冬休みの達成率は80%であった。夏休みの反省も踏まえて、各自の課題に見合った目標を設定し取り組む様子が見られた。しかし、メディア利用に関する項目は74%とやや低く、意識改革は見られるが、今後も継続してメディアコントロールと睡眠の大切さを指導していく。
⑤安全管理	災害や不審者等に対する児童や教職員の対応実践力を高める。	警察署と連携した「防犯教室」、消防署と連携した「火災や地震・津波・浸水想定避難訓練」、保護者と連携した「児童引き渡し訓練」を実施し、緊急時の対応についての実践力向上を図る。	総務部 教頭	避難訓練等を計画的に実施し、児童の危機への対応能力を高めているが、継続して実施し、さらに危機に対応する能力を育てる必要がある。	【成果指標】 様々な状況に対して、職員や児童が適正かつ安全な避難行動ができたか。	安全確保のために具体的な場面を想定して対応ができたと考えた教職員が A: 9割以上 B: 8割以上 C: 7割以上 D: 7割未満	教職員アンケートにより、各避難訓練時に評価する。	A	A	避難訓練(火災、地震・津波、浸水)・シェイクアウト訓練・不審者対応訓練を実施し、安全確保のための組織的な対応を行うことができた。訓練での学びをいかして学校以外の場面でも命を守る行動ができるようにしていく。
⑥特別支援教育	発達段階や特性に応じた適切な指導を行うとともに、それらを個性として互いに認め合う雰囲気づくりに努める。	支援が必要な児童について共通理解を図り、適切な支援をする。また、道徳の授業や縦割り活動、人権週間などの機会をとらえ、互いを認め合うことを指導していく。	学力向上部 特別支援コーディネーター	支援が必要な児童について、継続して支援を行っているが、自分と違う意見を認め、異なる立場の友達の行動や意見を大切に、尊重し合っているとはいえない。	【成果指標】 児童が、道徳科の授業や縦割り活動、人権週間等で、自分と異なる意見や立場を尊重し、互いを認め合うことができたか。	道徳科の授業や縦割り活動、人権週間等で互いを認め合うことができたという児童が A: 9割以上 B: 8割以上 C: 7割以上 D: 7割未満	児童アンケートにより、7月と12月に評価する。	A	A	「とても思う」が約7割、「思う」が約3割であった。今後は全員が「とても思う」になるように、支援が必要な児童への理解を深めて適切な支援を継続して行う。また、考えを出し合う場面を設定して互いの気持ちを認め合えるようにしていく。
⑦組織運営 業務改善	各教職員が校務に責任を持ち、組織的に協働して学校目標の具現化に努める。	運営委員会や分掌部会を計画的に実施し、組織的・協働的に学校運営を行う。	総務部 教頭	少人数だからこそ組織的・協働的な体制を整え、運営委員会や分掌部会を計画的に開催して共通理解・共通実践することが必要である。	【成果指標】 運営委員会・分掌部会を活用し、組織的な取組が行えたか。	各分掌からの取組について、共通理解・共通実践できた教職員が A: 全教職員 B: 8割以上 C: 7割以上 D: 7割未満	教職員アンケートにより、7月と12月に評価する。	A	A	各部で意思の疎通を図り、運営委員会で調整することで、共通理解・共通実践を行うことができた。学校目標の具現化に向けて、今後も各部の取組がより効果的な実践になるように努めていく。
	教職員の業務の効率化や平準化を図り、校内における働き方改革を推進する。	日課の工夫、ICT活用、「TODOリスト(軽重をつけて)」の習慣化、月2回の定時退校日の設定等により、教職員の勤務時間短縮のための意識・スキルを高める。	総務部 教頭	各教職員の担当する校務分掌が多岐にわたるため、業務の効率化・平準化を行うことで時間外勤務を減らすことが必要である。	【成果指標】 計画的・効率的な業務遂行に努めることで、毎月の時間外勤務が70時間を超えなかったか。	毎月の時間外勤務の合計が、平均で70時間を超えない教職員の割合が A: 全教職員 B: 8割以上 C: 7割以上 D: 7割未満	毎月の勤務時間記録より、9月と2月に評価する。	C	A	毎月の時間外勤務の平均が70時間を超えない教職員は100%であった。今後は協力体制や分業の見直しを推進して業務の平準化を図るとともに、ICT活用による業務軽減にも取り組んで時間外勤務の削減に努めていく。
⑧研修	校内研修の充実を図り、授業改善や指導力向上に努める。	体育科の器械運動領域、またICT活用を中心に研修し、授業改善に取り組む。若プロ研修を計画し、組織的に取り組む。	学力向上部 研究主任 教頭	器械運動領域を中心に、校内研修、授業研究をしてきている。今後はICT活用の研修を充実させ、授業でも取り入れていく必要がある。	【成果指標】 研究授業や校内研修を、外部人材活用や動画ライブラリー活用等により指導力向上が図られたか。	校内研修、授業研究において成果があったと感じる教職員が A: 全教職員 B: 8割以上 C: 7割以上 D: 7割未満	教職員アンケートにより、7月と12月に評価する。	A	A	ICTサポーターの支援もあり、充実したICT活用の研修ができた。また外部の研修で学んできたことを校内で情報共有できた。今後、錦城小との統合を見据えたICT活用の研修を進めていく。
⑨保護者、地域との連携	日常的教育活動の開示や学校評価を通して、学校への信頼向上に努める。	学校と保護者、町づくり推進協議会とが連携し、教育活動や環境整備の向上を図る。	総務部 教頭	学校の教育活動への協力を惜しまない地域の方が多く、地域と共に行う行事も続いている。	【満足度指標】 保護者や地域の方が様々な教育活動を理解し、満足しているか。	家庭や地域と連携を図って教育活動を行っていると感じた保護者が A: 9割以上 B: 8割以上 C: 7割以上 D: 7割未満	保護者アンケートにより、7月と12月に評価する。	A	A	全保護者が肯定的な意見である。社会情勢の変化に対応しながら、保護者の要望を考慮し、保護者・地域と職員が連携して閉校までの教育活動を推進していく。
⑩教育環境整備	校舎内外の環境整備・環境美化に努め、安全で教育効果を高める教育環境の充実を図る。	日常的に安全点検・備品管理に努め、施設・設備・備品等の適切な整備を行う。	総務部 教頭 事務	安全点検を通して職員は安全な学習環境整備に努める意識が高い。不備な箇所は速やかな回復措置に努めているが、校舎の老朽化に伴い、日常的に修繕が必要である。	【成果指標】 管理場所の担当者が安全確保と環境整備に努め、常に学習・生活環境が整備されているか。	安全確保・環境整備が整っていると感じた教職員が A: 全教職員 B: 8割以上 C: 7割以上 D: 7割未満	教職員アンケートにより、7月と12月に評価する。	A	A	定期的な安全点検によって、危険箇所の早期発見と迅速な対応を心がけ、今後も安全な学習環境作りを努めていく。

学校関係者評価	・昔に比べると元気な挨拶が少なくなっていると感じる。今後も継続して自分から進んで挨拶できるように育ててほしい。 ・閉校後、錦城小学校・錦城中学校という大人数の中で自信をもってやっていけるように、残りの時間の中でキャリア教育をさらに充実してほしい。また、4月からの錦城小学校での三木小学校児童のサポート体制を強化してほしい。 ・閉校後の学校備品を子どもたちのために有効活用してほしい。
---------	---